

医学教育分野別評価 三重大学医学部医学科 年次報告書
2024 年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

はじめに

本学医学部医学科は、2019 年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2021 年 2 月 1 日から 7 年間の認定を受けた。その後、評価結果に示された「改善のための助言」に基づいて、教務委員会を中心に教育の改善に向けての新たな取組みを開始した。その状況を 2023 年度の年次報告書として提出する。本年次報告は、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 に準拠して作成した。また、本年次報告書に記載した教育活動は、2023 年 4 月から 2024 年 3 月までを対象としている。なお、重要な改定のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・教学の PDCA サイクルを確立するため、カリキュラムの立案を主な目的とするカリキュラム委員会とカリキュラムの評価を主な目的とするカリキュラム評価委員会を設置し、活動を開始した（資料 1-1、1-2）。

・医学部の基本理念「確固たる使命感と倫理観をもつ医療人を育成し、豊かな想像力と研究能力を養い、人類の健康と福祉の向上につとめ、地域および国際社会に貢献する。」に関連するディプロマポリシーの改訂について、医学教育ワーキンググループで検討を行い、提言をまとめた（資料 1-3、1-4）。

今後の計画

・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会、教務委員会が連携して継続的な医学教育の改善に取り組む。

医学教育ワーキンググループから提言されたディプロマポリシーの改訂について、教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会などで議論する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024. 2
- （資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1
- （資料 1-3）医学教育 WG 提言_学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の修正について
- （資料 1-4）医学教育 WG 提言_ディプロマポリシーに対するコンピテンシーと評価方法(案)

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・使命に、医学研究、国際的健康および医療の観点を包含している。

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- ・カリキュラム評価委員会、カリキュラム委員会から医学部の使命のなかに、医学研究、国際的健康および医療の観点を包含することについての意見を求める。
- ・大学全体の基本理念の見直しに合わせて、医学科の使命についても社会状況に沿った見直しを行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・教務委員会の各専門委員会が前年度の実績を踏まえた懸案事項を作成し、自律的にカリキュラムの改善と、カリキュラムを実施するために配分された資源の活用について検討した（資料 1-5）。

今後の計画

- ・教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員のさらなる連携により、組織として自律性を持って教育施策を構築し、実施する体制を強靱化する。
- ・医学部教授会が、大学の自律性および教育・研究の自由の状況を常に管理監督し、現在の状況が後退することがないように努める。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-5）令和 5 年度各専門委員会の懸案事項と活動計画

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

・教員と学生とがともに参加する「新入生と教員が語る会」（第 1 学年対象）（資料 1-6）、「医学教育を語る会」（第 3 学年対象）（資料 1-7）、「診療参加型臨床実習を語る会」（第 5 学年対象）（資料 1-8）を継続して実施し、現行カリキュラムに関する検討を含め、自由に意見交換した。

・6 月と 2 月に医学科 2 年生の専門科目を担当する教員と学生がカリキュラムについて議論する場を設定し、それぞれの観点から現行カリキュラムに対する提言を行った（資料 1-9）。

今後の計画

・教員と学生の対話をさらに促進し、教員と学生の教育・研究の自由を保障しながら、現行カリキュラムの検討・改善を進める。

改善状況を示す根拠資料

- ・（資料 1-6）医学部医学科第 1 学年「新入生と教員が語る会」 2023. 6
- ・（資料 1-7）医学部医学科第 3 学年「医学教育を語る会」 2024. 2
- ・（資料 1-8）医学部医学科第 5 学年「診療参加型臨床実習を語る会」 2023. 11
- ・（資料 1-9）医学科 2 年生と教員のミーティング

1.3 学修成果

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・学修成果（コンピテンス/到達目標）は、ディプロマポリシーに対応して、より具体的で、学生が理解可能なコンピテンス（観察可能な能力）を設定し、学内に広く周知すべきである。

・学生が、臨床実習のみならず低学年においても、学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとれるよう、行動規範の策定などにより、確実に修得させるべきである。

改善状況

- ・授業科目における到達目標・コンピテンシーと、ディプロマポリシーとの関連性を明記した対応表を学生便覧・学習要項に掲載した（資料 1-10）。
- ・医学教育ワーキンググループが、ディプロマポリシーの改訂と、ディプロマポリシーに対するコンピテンシーと評価方法の案を作成した（資料 1-4）。
- ・「三重大学医学部医学科におけるアンプロフェッショナルな学生の報告・評価要領」を策定した（資料 1-11）。

今後の計画

- ・教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会等において、医学教育ワーキンググループが提言したディプロマポリシー改訂案と、ディプロマポリシーに対するコンピテンシーと評価方法の案を議論し、学生が卒業時に発揮する能力を学修成果としてさらに明確化する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-4）医学教育WG 提言_ディプロマポリシーに対するコンピテンシーと評価方法(案)
- （資料 1-10）令和 6 年度学生便覧・学習要項
- （資料 1-11）三重大学医学部医学科におけるアンプロフェッショナルな学生の報告・評価要領

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果とを関連づけることが望まれる。

改善状況

- ・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会それぞれに、医学部附属病院臨床研修・キャリア支援部の大学教員 1 名と、関係教育病院を代表する者 1 名が委員として参画し、卒業時の学修成果と臨床研修終了時の学修成果とを関連づけたカリキュラム構築に向けて議論した（資料 1-1、1-2）。

今後の計画

- ・教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会の連携を高め、卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果のさらなる明確化と関連付けを行う。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024. 2
- （資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・使命と学修成果の策定には、学生代表や職員など、教育に関わる主要な構成者の積極的な参画を促すべきである。

改善状況

・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会ともに、教員だけでなく、各学年の代表1名ずつと事務職員、教員が委員として参画する体制を確立し、活動を開始した（資料 1-1、1-2）。

・各学年の学生有志と教務委員長・学生委員長との懇談会を毎月実施し、学生からの意見を聴取した。学生からの意見は、教務委員会での教育改善に反映させた（資料 1-12）。

今後の計画

・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会、学生有志と教務委員長・学生委員長との懇談会等の活動を通して、医学科の使命と学修成果の策定における、教育に関わる主要な構成者の参画を推進していく。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024. 2

（資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1

（資料 1-12）学生有志と教務委員長・学生委員長の懇談会 2023. 10

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・使命と学修成果の策定には、広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

改善状況

・前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

・前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

・前項「基本的水準」と同じ

2. 教育プログラム

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・第1学年からの「スタートアップセミナー」や「教養ワークショップ」、臨床医学教育におけるPBLチュートリアル、エレクトィブ臨床実習など、アクティブラーニングを積極的に導入していることは高く評価できる。
- ・多様な海外体験実習がカリキュラムに組み込まれていることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・継続してPBLチュートリアル教育を行っている。今後も学生のアクティブラーニングを推進していく方針である(資料2-1、2-2)。
- ・文科省事業等の採択を受けて、シミュレータや仮想現実および拡張現実教材を中心とした自学自習教材の活用によるアクティブラーニングを推進している(資料2-3)。
- ・自己学習を促すため一部授業へのe-learningシステム(CKSJ)の導入を開始している(資料2-4、2-5、2-6)。
- ・共通教育の選択授業として英国のシェフィールド大学で行われる英語特別プログラムが開催され、8名の医学科学生が参加した(資料2-7)。

今後の計画

- ・アクティブラーニングを支援するためのe-learning教材の整備を進める。

改善状況を示す根拠資料

- (資料2-1) 2022年度3年生～2023年度4年生 ユニット計画
- (資料2-2) 2023年度3年生～2024年度4年生 ユニット計画
- (資料2-3) 令和5年度事業報告書(黒潮医療人養成プロジェクト)
- (資料2-4) 2023年度 医学科4年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表
- (資料2-5) 解剖学春休み課題
- (資料2-6) ClinicalKey Student Assessment Japan
- (資料2-7) 英国シェフィールド大学 英語特別プログラム 2023.3

質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)

- ・アクティブラーニングの積極的な導入など、自らの学びを深める取り組みを進め、生涯学習につながるスキルを修得できるプログラムを提供していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- ・前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- ・前項「基本的水準」と同じ

2.2 科学的方法

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

- ・「新医学専攻コース」や「研究室研修」などの医学研究を体験する機会を設け、英文での計画書作成や英語での発表を行い、ピア評価も受けていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・学生のEBMの活用は、エビデンスへの批判的解釈や個々の患者への適用の点で課題がある。EBM教育の妥当性について、学生や学外者らから評価や助言を受けるべきである。

改善状況

- ・第4学年臨床実習前集中講義においてEBMに関する授業を導入し、臨床現場でのEBMの活用に関する教育を強化した（資料2-4）。
- ・カリキュラム評価委員会で研究室研修の実施時期や内容に関する議論を行い、現状の課題をカリキュラム委員会に報告した（資料1-2）。
- ・臨床シナリオを用いる問題基盤型チュートリアル教育（第3-4学年）と臨床実習（第4-6学年）では、インターネットを介しEBM情報を入手できるソフトウェアシステム（UpToDate）を利用できる学習環境を学生に提供するとともにその活用方法に関する授業を実施した（資料2-4、2-8）。
- ・カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会はカリキュラムの改善に向けて議論を開始した（資料1-1、1-2）。

今後の計画

- ・第4学年臨床実習前集中講義に導入したEBMに関する授業を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024.2
- （資料1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024.1
- （資料2-4）2023年度 医学科4年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表
- （資料2-8）2023年度 医学科3年生 PBL-Tutorial 教育 MIU1 感染症ユニット講義計画予定表

質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

・教育専門委員会ごとにカリキュラムの内容や教育方法の課題を抽出し、改善策を立案している。これらの状況を教務委員会で統括的に把握し、科学的方法に基づくカリキュラム構成や科学的に適切である教育方法の採用が適切に行われていることを確認するよう努めている（資料 1-5）。

・新たなカリキュラムの立案を行うカリキュラム委員会を設置し、カリキュラムの改善に向けた議論を開始した（資料 1-1）。

今後の計画

・医学・看護学教育センターを中心に、授業に関するアンケートを実施している（資料 2-9）。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024.2

（資料 1-5）令和 5 年度各専門委員会の懸案事項と活動計画

（資料 2-9）大学学習環境評価アンケート

2.3 基礎医学

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための助言

・基礎医学教育の総合的な学修成果についての目標や、目標達成のための教育方針を、授業担当者間で共有すべきである。

・臨床医学の修得のために必要な知見、概念、手法を吟味し、基礎医学教育を検討すべきである。

改善状況

・教務委員会の下に基礎医学教育専門委員会を設置し、基礎医学教育の改善に向けての検討を継続して行なっている（資料 2-10）。

・カリキュラム評価委員会で基礎医学教育に関する総合的な学習成果の評価の実現可能性につき議論され、その内容がカリキュラム委員会に報告された（資料 1-2）。

今後の計画

・カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会によるカリキュラムの改善案の立案、これらの評価と提案に基づく教務委員会と基礎医学教育専門員会による継続的な基礎医学教育カリキュラムの改善に取り組む。

・カリキュラム委員会において、基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学との垂直統合に関して、議論を進める予定である。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1

（資料 2-10）基礎医学教育専門委員会議事録 2023. 4

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための示唆

・科学的、技術的、臨床的進歩および将来的に必要となることは、個別の科目単位だけではなく、医学部医学科として検討し、カリキュラムに反映させることが望まれる。

改善状況

・現在および将来的に社会や保健医療システムにおいて必要となることの教育を含む体系的なカリキュラムの実施に向けて、教務委員会が各教育プログラムの課題把握と改善に取り組んでいる（資料 1-5）。

・社会や保健医療システムにおいて必要となることは、第 1 学年から第 6 学年まで継続して学習できるカリキュラムが編成されている（資料 2-11）。

・カリキュラム評価委員会による現行カリキュラムの評価が開始され、カリキュラム委員会による新カリキュラムの作成に向けた議論が行われた（資料 1-1、1-2）。

今後の計画

・社会や保健医療システムにおいて必要となることの学習について、カリキュラム評価委員会が現行カリキュラムの評価を行い、カリキュラム委員会がカリキュラムの改善案を立案する。それらの評価と提案に基づいて、教務委員会と関連する教育専門委員会がカリキュラムを実施する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024. 2

（資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1

（資料 1-5）令和 5 年度各専門委員会の懸案事項と活動計画

（資料 2-11）医学部医学科カリキュラムマップ

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準: 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための助言

・行動科学を医学教育の一領域として位置付け、教育目標や教育内容をさらに検討し、行動科学や社会医学などのカリキュラムを体系立てて構築し、実践すべきである。

改善状況

- ・行動科学・社会医学教育専門委員会が、継続して行動科学・社会医学カリキュラムの実施と改善に取り組んでいる（資料 2-12）。
- ・カリキュラム評価委員会で現行カリキュラムでの行動科学教育の問題点について議論され、医学生が行動科学の重要性を理解しながら学修を進めることができるカリキュラムの整備の必要性につきカリキュラム委員会に報告された（資料 1-2）。
- ・1年生の必修の講義として、行動科学に関する授業を行っている（資料 2-13）

今後の計画

- ・カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会が行動科学カリキュラムの改善案を立案する。それらの評価と提言に基づいて、教務委員会と行動科学・社会医学教育専門委員会とが、実効性のある行動科学カリキュラムを実施することを計画する。
- ・1年生の必修授業である医学医療入門に 2024 年度から社会医学の内容を追加する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-2） 三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1
- （資料 2-12） 2023 年度 行動科学・社会医学教育専門委員会懸案事項
- （資料 2-13） 2023 年度キャリア教育入門授業内容

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・行動科学、医療倫理学および医療法学の分野において、進歩ならびに将来必要になると予測されることを十分に検討し、カリキュラムに反映させることが望まれる。

改善状況

- ・カリキュラム評価委員会で現行カリキュラムでの行動科学教育の問題点について議論され、医学生が行動科学の重要性を理解しながら学修を進めることができるカリキュラムの整備の必要性につきカリキュラム委員会に報告された（資料 1-2）。
- ・第 4 学年臨床実習前集中講義に医療倫理学および医療法学を体系的に学習する授業を導入し、継続して実施している（資料 2-4）。
- ・1年生の必修の講義として、行動科学に関する授業を行っている（資料 2-13）
- ・法医学講義において弁護士や元児童相談所所長といった学外講師を招き、医療・保健・福祉に関する授業を継続して行っている（資料 2-4、2-14、2-15）。
- ・3 年生に対して、将来必要となることが盛り込まれた法医学の講義が行われている（資料 2-4、2-14、2-15）。

今後の計画

- ・医療倫理学および医療法学の分野における進歩、ならびに将来必要になると予測されるこ

とを学ぶ授業を実施し、継続的な改善を行うため、カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会はカリキュラムの改善案を提案する。これらの委員会からの評価や提案を基に、教務委員会と行動科学・社会医学教育専門委員会とが連携して、行動科学教育の継続的な改善に取り組むことを計画する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-2） 三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1
- （資料 2-4） 2023 年度 医学科 4 年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表
- （資料 2-13） 2023 年度キャリア教育入門授業内容
- （資料 2-14） 令和 5 年度非常勤講師の採用について
- （資料 2-15） 令和 5 年度 3 年生スケジュール

2.5 臨床医学と技能

基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・基礎医学から臨床医学への橋渡しの教育である「チュートリアル教育」では、基礎医学系教員の参画を促し、臨床医学教育の多角的な視点からの充実を図るべきである。
- ・臨床実習における、診療参加型臨床実習の期間を十分に確保すべきである。
- ・内科、外科、総合診療科/家庭医療学、産婦人科、小児科では臨床実習の時間数は確保されているが、精神神経科は2週間の実習となっている。精神神経科においても十分な実習期間を確保すべきである。

改善状況

- ・チュートリアルの課題症例の変更と追加が行われた（資料 2-16、2-17）
- ・2022 年度に比べ 2023 年度では、チューターとしてチュートリアルに参加する基礎系教員が増加した（24 名→30 名）。
- ・診療参加型臨床実習の全実習期間を国際標準とされる 72 週とするため、2 週の実習期間の延長について教務委員会とクリニカルクラークシップ専門委員会で検討中である。カリキュラム評価委員会からも診療参加型臨床実習の期間を十分に確保することの必要性につき議論し、各診療科の実習期間および期待される技能の習得のために実習期間や実習内容の見直しが必要であることがカリキュラム委員会に報告された。（資料 1-2）。
- ・カリキュラム評価委員会からの提言を受け、カリキュラム委員会において診療参加型臨床実習の期間に関して議論を行い、次回のカリキュラム改編の際に 72 週にするように教務委員会に提言することが確認された（資料 1-1）。

今後の計画

- ・チュートリアル教育を基礎医学教育と臨床医学教育との垂直的統合の一モデルと捉え、シ

ナリオ作成とシナリオ関連講義への基礎医学系教員の参画を促進することを計画する。

- ・診療参加型臨床実習のカリキュラムがモデルコアカリキュラム（令和4年度版）に準拠するよう、教務委員会とクリニカルクラークシップ専門委員会とで検討する。

- ・カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会が臨床実習の改善案を立案する。これらの委員会からの助言・提案に基づいて教務委員会とクリニカルクラークシップ専門委員会とが協力して臨床実習の改善に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024. 2

（資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1

（資料 2-16）3年生チュートリアル教育チューター担当のお願い（依頼）2022. 9～2023. 7

（資料 2-17）3年生チュートリアル教育チューター担当のお願い（依頼）2023. 9～2024. 7

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための示唆

- ・臨床医学教育カリキュラムを科学および臨床医学の進歩、将来において必要となることに関して、調整・修正することが望まれる。

改善状況

- ・地域医療構想に基づく将来の医療に必要となることを学ぶ機会として、第4学年臨床実習前集中講義に医師会および行政関係者による授業を継続して行っている（資料 2-4）。

- ・地域包括ケアの拡充に伴い需要が増加すると予測される総合診療、リハビリテーション医学の教育の強化に取り組んでいる（資料 2-18、2-19）。

- ・臨床医学教育カリキュラムを科学および臨床医学の進歩、将来において必要となることを含むカリキュラムの立案を行うカリキュラム委員会を設置した（資料 1-1）。

今後の計画

- ・カリキュラム評価委員会が定期的に現行カリキュラムの評価を行い、カリキュラム委員会がカリキュラムの改善案を立案し、教務委員会と関連する教育専門委員会とが協力して、科学および臨床医学の進歩に対応した臨床医学教育カリキュラムを実施する。

- ・診療参加型臨床実習のカリキュラムがモデルコアカリキュラム（令和4年度版）に準拠するよう、教務委員会とクリニカルクラークシップ専門委員会とで検討する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024. 2

（資料 2-4）2023年度 医学科4年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表

（資料 2-18）三重大学医学部総合診療教育開発センター規程

（資料 2-19）リハビリテーション医学

2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

- ・教員、学生、事務職員、関係教育病院代表者などが委員として参画するカリキュラム委員会を組織し活動を開始した（資料 1-1、2-20）。
- ・医学教育ワーキンググループによりディプロマポリシーに対する評価可能なコンピテンシー（案）が作成され、教務委員会で協議された（資料 2-21）。

今後の計画

- ・カリキュラム評価委員会による現行カリキュラムの評価を受け、カリキュラム委員会による新カリキュラム作成の議論が開始された。今後、継続して議論を行い、カリキュラムの改編につなげていく。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024.2
- （資料 2-20）2023 年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料 2-21）医学科教務委員会議事概要 2024.2

質的向上のための水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための示唆

- ・基礎医学での水平的統合と、基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合を一層充実させることが望まれる。

改善状況

- ・カリキュラム評価委員会では基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直統合の必要性につき議論された。垂直統合に際して学修内容に漏れが生じないよう各講座が留意する必要性を含め、カリキュラム委員会に議論の結果が報告された（資料 1-2）。
- ・カリキュラム委員会による新カリキュラムの議論が行われ、水平統合・垂直統合を推進する方向で次回以降の会議でも継続議論することが確認された（資料 1-1）。

今後の計画

- ・カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会がカリキュラムの改善案を立案し、教務委員会がカリキュラムの改善に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024. 2

（資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1

2.7 プログラム管理

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないように、担当部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための示唆

・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会に、広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

改善状況

・各学年の学生代表や外部の有識者を委員に含むカリキュラム評価委員会の活動が開始された（資料 1-2、2-22）。今後は定期的に委員会を開催し、現行カリキュラムの評価を行う。

・各学年の学生の代表者や外部の有識者が参加するカリキュラム委員会が設置され、カリキュラム改編に向けた議論が開始された（資料 1-1、2-20）。

今後の計画

・教育カリキュラムの実施に責任と権限を持つ委員会である教務委員会には、広い範囲の教育の関係者の代表が含まれており、今後もその体制を継続する。

・各学年の学生代表、研修医や外部の有識者を委員に含むカリキュラム評価委員会を定期的
に開催し、現行カリキュラムの評価を行う。

・学生代表や外部の有識者を委員に含むカリキュラム委員会を定期的
に開催し、教育関係者の複合的な視点から望まれるカリキュラムの立案を目指す。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024. 2

（資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1

（資料 2-20）2023 年度 カリキュラム委員会名簿

（資料 2-22）2023 年度 カリキュラム評価委員会名簿

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・医師会の協力を得て「国民健康保険」に関する授業を臨床実習前の学生を対象に実施している（資料 2-4）。

今後の計画

・医療保険制度を学ぶ授業を継続して実施することを計画する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 2-4）2023 年度 医学科 4 年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表

質的向上のための水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための示唆

・卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

改善状況

・カリキュラムの評価を行うカリキュラム評価委員会には、地域の臨床研修病院を代表する指導医、臨床研修・キャリア支援部の大学教員、学生代表が委員として参画し、県内の臨床研修病院の指導医を委員長とし、学外からの目線で本学のカリキュラムに関する意見を募りやすい環境を整備した。（資料 2-22、2-23）。

・1 年生の必修の講義として、医師のキャリア教育に関する授業を行っている（資料 2-13）。

・近い将来のキャリア支援に関する話を学生に対してキャリア支援センターで行っている（資料 2-13）。

今後の計画

何年かに一度、学生の就職先に対してアンケートを行っているがそれを強化していく。

現在、将来のキャリア支援に関する話を学生に対してキャリア支援センターで行っており、

今後も継続していく。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 2-13）2023 年度キャリア教育入門授業内容
- （資料 2-22）2023 年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料 2-23）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会規程

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・全ての授業科目のウェブシラバスに、評価の原理、方法および実施について記載すべきである。
- ・臨床実習の評価において mini-CEX などを積極的に導入すべきである。
- ・評価における利益相反を明文化すべきである。
- ・評価は外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。

改善状況

- ・臨床実習での学生の臨床能力を客観的に評価するため、多角的な評価方法として令和 5 年 1 月開始の第 4 学年より CC-EPOC を導入した。導入にあたり各科で別々であった評価票も全診療科で共通化し評価の標準化を図った。（資料 3-1）
- ・外部委員を含むカリキュラム評価委員会を立ち上げ、学生評価の方法とその妥当性、信頼性について評価を受ける体制を整備した。
- ・令和 5 年度にディプロマポリシーの見直しを行い、対応する評価可能なコンピテンシー案を設定した。

今後の計画

- ・全授業科目でウェブシラバスへの評価方法に関する具体的情報の記載を行うことを計画する。
- ・今後 CC-EPOC 内の mini-CEX 等の評価ツールについて利用の拡大を予定している。
- ・臨床系教員を対象にした臨床能力評価をテーマにした FD 研修会を計画する。
- ・すべての授業科目で、学生評価における教員の利益相反に関する規則を制定する。
- ・コンピテンシー案について議論を深め、それぞれのコンピテンシーを測定するカリキュラムを個別に決定し、評価方法を設定しウェブシラバスへ記載する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 3-1）CC-EPOC 評価票・評価基準

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

- ・評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・外部評価者の活用を進めることが望まれる。

改善状況

- ・医学・看護学教育センター内に試験解析システムを導入し、チュートリアル教育、卒業試験での試験問題解析（正当率と識別指数の算出、成績分布表の作成）を行い、試験の妥当性評価を行っている（資料 3-2）。
- ・卒業試験の信頼性と妥当性を検証し向上させる目的で、試験問題作成担当教員を対象にした研修を継続して実施している（資料 3-3）。
- ・前述の通り臨床実習（学外実習機関を含む）での評価の標準化のため CC-EPOC を導入した。全診療科共通の評価表を作成し、学外実習期間での評価もこれを用いて開始している。
- ・臨床実習においては学外実習期間で外部評価者の評価を受けている。地域実習、早期体験実習に関しても外部評価者の活用を推進している。（資料 3-4）

今後の計画

- ・試験実施後には、出題者に対して解析結果のフィードバックを行うとともに、試験問題の解析結果を学生に開示し、学生からのフィードバックを受けることを計画する。
- ・外部評価者（学外実習）の活用推進とともに評価の信頼性向上、標準化に向けた FD 研修会を行うことを計画する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 3-2）卒業試験 得点分布図
- （資料 3-3）2023 年度 卒業試験専門委員会
- （資料 3-4）2023 年度地域基盤型保健医療教育実習（伊賀市班）

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

- ・学修の進捗に対応して、学修成果の到達度を評価するための基準を定め、学生を評価すべきである。
- ・形成的評価の有効的な利用を検討すべきである。

改善状況

- ・チュートリアル教育においては、チュータータイム毎に提出されるポートフォリオの確認作業を通じて学生に対する形成的評価を実施している（資料 3-5、3-6、3-7）。
- ・学修の進捗に合わせた学修成果の到達度評価に関する課題を教務委員会で共有し、改善計画を立案する方針を確認した。
- ・形成的評価の有効的活用に関する課題を教務委員会で共有し、改善計画を立案する方針を確認した。
- ・臨床実習参加学生を対象に 3 月と 7 月の臨床医学実力試験を実施し、臨床医学の履修状況を確認するとともに、成績不振者に対しては、メンター教員を配置し、継続的な形成的評価と学習指導を実施している（資料 3-8、3-9）。
- ・臨床実習のマイルストーンとして、経験すべき医行為について Moodle 上で記入可能な形の Excel ファイルとして公開し、卒業のための基準としても使用した（資料 3-10）。

今後の計画

- ・カリキュラムマップのなかに学習課程のマイルストーンを設定し、その時点での学修成果の到達度を評価する基準を定めることを計画する。
- ・授業科目単位での形成的評価のあり方を検討するとともに、教務委員会で学生の学修意欲を高める形成的評価の方針を定める。
- ・個々の学生の学習状況と学修成果の進捗に対し形成的評価を行い、その内容を記録することで学生の学修を長期的、かつ継続的に支援する方策を検討する。
- ・基礎医学に関して、総合的な知識を問う試験の実施に関して議論を開始している。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 3-5）2023 ポートフォリオ記載要領
- （資料 3-6）サンプルポートフォリオ（1）
- （資料 3-7）サンプルポートフォリオ（2）
- （資料 3-8）卒業試験資格認定試験 2023. 7
- （資料 3-9）2023 年度卒業試験専門委員会 懸案事項
- （資料 3-10）経験記録表

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善状況

- ・カリキュラム委員会を立ち上げ、授業単位の試験の回数と方法の妥当性について議論する準備を整えた。学習の負の効果を避けるため、カリキュラム委員会に学生委員も参加し、カリキュラムの適正化についての議論を開始した。
- ・臨床実習においては全科共通の評価ルーブリック表を作成し評価を開始した（資料 3-1）。

今後の計画

- ・授業単位での評価実施状況を調査し、評価方法や評価基準の適正化に向けて検討することを計画する。
- ・統合的学修を促進するため、統合的学修に関する学修項目を設定し、適切に評価するための方法（パフォーマンス評価、観察記録、ポートフォリオ、ルーブリックなど）の導入について検討する。
- ・教員の統合的評価の必要性に対する理解を高めるため、FD 研修会を計画する。
- ・カリキュラム評価委員会から評価のあり方に関する評価と助言を受け、教務委員会が、授業単位での試験の回数と方法の適正化を図る。

改善状況を示す根拠資料

（資料 3-1）CC-EPOC 評価票・評価基準

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・推薦入試（地域枠 B 選抜）では、出身高等学校長に加え、出身自治体の長、出身地域の医療を担う医療機関の病院長からの推薦を求めている。

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・医学科入試委員会を中心に、適切な入学者選抜方針の提示と入学者選抜方法の実施に継続して取り組んでいる（資料 4-1）。
- ・文部科学省の方針に沿った入試改革に対しては、医学科入試委員会が、全学入試委員会、アドミッションセンター（入試チーム）と連携し対応している（資料 4-1）。
- ・地域枠入学者選抜制度の実施・変更については、文部科学省が示す方針のなかで地域社会からの要請に応えられる制度の継続について検討している（資料 4-2、4-3）。
- ・地域枠制度の維持に関して、三重県庁および自治体からの要望を聴く機会を設けている（資料 4-4、4-5、4-6）。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることなく担当部門での取組みを継続する。
- ・学生募集要項の「障害等のある入学志願者との事前相談について」を利用した入学前配慮申請事項を入学後の合理的配慮へと有機的に連携させる（資料 4-7）。

改善状況を示す根拠資料

（資料 4-1）全学入試委員会事項書 2023.4

（資料 4-2）令和 6 年度医学部臨時定員増に関する意向調査について

（資料 4-3）全学入試委員会事項書 2023.5

（資料 4-4）令和 5 年度 第 1 回三重県地域医療対策協議会 事項書 2023.7

（資料 4-5）地第 8 次医療計画における医師確保計画（第 8 次（前期）医師確保計画）の策定方針について

（資料 4-6）令和 5 年度事業計画及び収支予算（三重県市町村振興協会）

（資料 4-7）令和 6 年度学生募集要項 P14-15

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・入学決定に対する疑義申し立て制度を策定することが望まれる。

改善状況

・入学者決定に対する疑義申し立て制度の有無について全学入試委員会に対して質問したところ、当初は「疑義があった場合の全学対応方針は明文化されていないため、対応を検討したい」との回答であったが、その後検討され、疑義に対して適切に対応するためのフローチャートが全学入試委員会において作成された（内容非公表）。

今後の計画

・全学入試委員会の方針に基づき、医学科として適切に対応する。

状況を示す根拠資料

なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、医学科入試委員会での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、医学科入試委員会での取組みを継続する。
- ・学生募集要項の「障害のある入学志願者との事前相談について」を利用した入学前要配慮申請事項を入学後の合理的配慮へと有機的に引き継ぐことを計画する（資料4-7）。
- ・現行の実施体制を継続する。

改善状況を示す根拠資料

（資料4-7）令和6年度学生募集要項 P14-15

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「学生なんでも相談室医学部分室」が有効に活用されている。
- ・上級生が下級生の成績不振者の学修支援を行っている。

改善のための助言

- ・低学年での学生の学修上の問題を支援する体制を、組織的に充実させるべきである。

改善状況

- ・教務委員会と学務課とが協力し、低学年学生の共通教育における履修届の提出状況、出席状況、単位取得状況などの情報を収集し、教務委員会が学修上の課題を持つ学生に対する早期介入を行なっている。
- ・医学科専門課程の履修状況に対して社会的、経済的、および個人的事情に課題のある学生については学務課が把握し、教務委員会と学生委員会／学生なんでも相談室とが情報共有をしている。必要に応じ、教員や相談員が個別に対応している（資料4-8）。
- ・第1学年学生に対しては、学務課と教務委員会、学生委員会／学生なんでも相談室とが緊密に連携し、入学後から早期に介入している（資料4-9）。
- ・第1学年学生に対して、対面形式の入学ガイダンスにおいて学生委員会／学生なんでも相談室の教員が自己紹介し、連絡先を伝えている（資料4-10）。
- ・第1学年学生に対しては学年担任教員の連絡先を伝えている。（資料4-11）
- ・第1学年学生に対しては、対面式の入学ガイダンスにおいて、心や体の不調時に相談する学内、および、学外の相談先を紹介している（資料4-10）
- ・学生なんでも相談室医学部分室担当教員が第1学年学生に対し、合理的配慮について紹介

を「医療と社会」授業（少人数グループ学修）で行っている（資料 4-12）。

- ・全学の障害学生支援機構調整会議に学生委員長も参加し、全学障害学生支援センターとの連携を強化している。（資料 4-13、4-14）

- ・オンライン会議システムを活用し、教務委員長に加えて学生委員長も月 1 回の学年代表学生との情報交換会に参加している（資料 1-12）。

- ・実習室を学生の自習室として利用できるようにしている。また、その管理・運営は学年代表学生が主体的に行っている。その際、学年代表が集まる月 1 回の定期会議に教務委員長／学生委員長も同席している（資料 1-12）

- ・学生なんでも相談室医学部分室担当教員が、第 1-2 学年の「医療と社会」授業（少人数グループ学修）においてメンタルヘルスの講義を行い、その際、個々の学生の特性を把握し、必要時の支援につながるよう相談室の存在や場所の周知に務めている（資料 4-15）。

- ・学生と教員がワールド・カフェ方式のワークショップで、現在の社会的課題などについて語り合う機会を第 1、第 3、第 5 学年に設けている（資料 1-6、1-7、1-8）。

- ・チュートリアル教育では、授業開始時に上級生による模擬チュートリアルを実施し、下級生の少人数グループ学習への積極的参加を支援している（資料 4-16、4-17、4-18）。

今後の計画

- ・学生委員会、学年担任教員と学修支援担当部門との連携強化をさらに進める。

- ・新入生に対する修学上の支援に関するガイダンス、適宜の指導を継続して実施する。

- ・第 1-2 学年「医療と社会」授業の担当教員を増員することで、より手厚い学修支援体制を構築する。

- ・第 1 学年学生に対して、対面形式の入学ガイダンスにおいて 2 年生が履修登録方法を伝授する機会を設ける。

- ・障害のある学生に対する合理的配慮について、第 1 学年学生に対しては対面形式の入学ガイダンスにおいて、上級生に対してはメールを用いて、学生委員長が年度初めに周知する。

- ・障害のある学生に対する合理的配慮について学生委員長が教授会で説明する。

- ・合理的配慮の必要な学生のうち、学科担当教員への追加説明が必要な学生については、学生委員長／なんでも相談室教員／学務課職員が直接、教員に対して説明を行ったり、合同会議を開催する。

- ・教務委員長／学生委員長と学年代表学生との月 1 回の情報交換会を従来のオンライン形式から対面形式に変更する。

- ・教務委員長／学生委員長と学年代表学生との定期的な情報交換を行う体制を継続するために、入学ガイダンスで 1 年生にこの会のことを紹介する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-6）医学部医学科第 1 学年「新入生と教員が語る会」 2023. 6

（資料 1-7）医学部医学科第 3 学年「医学教育を語る会」 2024. 2

（資料 1-8）医学部医学科第 5 学年「診療参加型臨床実習を語る会」 2023. 11

- （資料 1-12） 学生有志と教務委員長・学生委員長の懇談会 2023.10
- （資料 4-8） 障害学生支援センターHP
- （資料 4-9） 令和 5 年度医学科担当教員
- （資料 4-10） なんでも相談室（新入生ガイダンス）
- （資料 4-11） Moodle_医学部医学科 1 年生（2023 年度）
- （資料 4-12） 合理的配慮について
- （資料 4-13） 令和 5 年度 障害学生支援調整会議名簿
- （資料 4-14） 令和 5 年度第 1 回障害学生支援調整会議 事項書
- （資料 4-15） 医療と社会「行動科学と心理」
- （資料 4-16） チュートリアル教育 先輩からのアドバイス 1
- （資料 4-17） チュートリアル教育 先輩からのアドバイス 2
- （資料 4-18） 模擬チュートリ、討論記録例

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。
- ・講義「医学生のキャリアパス」を 1 年次の「行動科学と心理」科目において行っている（資料 4-15）

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、医学科教務委員会と学生委員会による取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 4-15） 医療と社会「行動科学と心理」

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・使命の策定、教育プログラムの管理、学生に関する諸事項を審議する委員会等に学生の代表が参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

改善状況

- ・カリキュラム委員会およびカリキュラム評価委員会を創設し、全学年代表学生が参加している（資料 2-20、2-22）。
- ・学年代表学生と教務委員長・学生委員長が月 1 回の意見交換会を対面形式で開催している（資料 1-12）。
- ・第 1・第 3・第 5 学年学生全員と教員代表が合同でワールド・カフェ形式を開催し、社会的課題について語り合っている（資料 1-6、1-7、1-8）。
- ・学生委員長とクラブ・サークル代表者との意見交換の場を定期的に設けている（資料 4-19）。

今後の計画

- ・学生からの要望を聴きながら、学生の意見・要望を反映する機会の継続的な改善に取り組む。
- ・三重大学医学部医学科カリキュラム委員会およびカリキュラム評価委員会に参加している学生の意見を反映する取り組みを継続する。
- ・使命の策定、教育プログラムの管理運営、学生の社会生活・課外活動に対する学生の参加状況に関して、カリキュラム評価委員会からの評価と助言を受け、教務委員会と学生委員会での継続的な改善に取り組むことを計画する。
- ・学生に関する諸事項を審議する学生委員会への学生の参加は認めていないが、学生と教務委員長・学生委員長が意見交換している会でも出された学生の意見を学生委員会に反映し、必要時には学生にも学生委員会に参加する機会を設ける。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-6）医学部医学科第 1 学年「新生と教員が語る会」 2023. 6
- （資料 1-7）医学部医学科第 3 学年「医学教育を語る会」 2024. 2
- （資料 1-8）医学部医学科第 5 学年「診療参加型臨床実習を語る会」 2023. 11
- （資料 1-12）学生有志と教務委員長・学生委員長の懇談会 2023. 10
- （資料 2-20）2023 年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料 2-22）2023 年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料 4-19）令和 5 年度 クラブサークル連絡会の開催について（4 月開催分）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・新規教員の募集と選抜方針を策定すべきである。

改善状況

- ・事務部門において、新規教員の募集と選抜方針に関する規程の確認作業と課題の抽出を行った。

今後の計画

- ・新規教員の募集と選抜方針の検討を継続している。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・地域医療を重視するという使命に沿い、教員を募集・採用している。

改善のための示唆

- ・指導的立場に就く女性教員の割合を増やすことが望まれる。

改善状況

- ・地域医療に貢献する人材の養成に必要な教員の募集として、文科省による令和4年度「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択された「黒潮医療人養成プロジェクト」（三重大学・高知大学・和歌山県立医科大学合同プロジェクト）に従い、教員の採用を実施した（資料2-3、5-1）。
- ・三重大学がすすめるダイバーシティ&インクルージョン（多様性とその受容）推進宣言（2022年）では、学生・教員が互いの個性を理解し、尊重し合う大学を目指せるようにアクションプランを設定している。その中で女性教員、若手教員とともに、指導的立場に就く女性教員として意思決定機関や教授・准教授に占める女性割合の目標数値を定めている。（資料5-2、5-3、5-4、5-5、5-6）
- ・指導的立場に就く女性教員の割合増加に向けて、就業をサポートする活動を実施してい

る。（資料 5-7、5-8、5-9、5-10）

・附属病院のホームページ上に、「業務支援ポータルサイト」を開設し、三重大学や三重県などからの支援情報を容易に入手できる情報環境を整備している（資料 5-10）。

今後の計画

・指導的立場に就く女性教員の割合増加に向けての有効な方策を検討し、実施することを計画する。

・三重大学ダイバーシティ・インクルージョン推進室を医学部内に作る。

改善状況を示す根拠資料

（資料 2-3）令和 5 年度事業報告書（黒潮医療人養成プロジェクト）

（資料 5-1）医学部ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業による大学教員の人事異動について

（資料 5-2）三重大学医学部附属病院における女性職員の活躍推進のための指針

（資料 5-3）三重大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言

（資料 5-4）三重大学ダイバーシティ&インクルージョン推進計画

（資料 5-5）「三重大学ダイバーシティ&インクルージョン推進計画」に基づくアクションプラン

（資料 5-6）三重大学統合報告書 2023 P26

（資料 5-7）ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック 2023

（資料 5-8）子育て医療従事者支援相談

（資料 5-9）2023 年度女性部交流会

（資料 5-10）三重大学病院ポータルサイト

5.2 教員の活動と能力開発

特記すべき良い点（特色）

・教員の教育、研究、診療の活動における学術的業績に基づき、表彰や改善指導を行う制度を整備している。

・教員評価に係る PDCA 自己申告書と基礎データ入力シートを基に教員としての業績を評価し、任期更新の可否を審議している。

改善のための助言

・個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解したうえで教育を担当すべきである。

・医学部医学科カリキュラムの全体像についての FD 研修会を活性化し、参加者を増やすべきである。

・新任教員に対する、FD 研修会を開催すべきである。

改善状況

・医学部教育貢献賞に加えて、臨床実習・臨床研修における教育貢献が顕著な附属病院医師を対象にした附属病院教育貢献賞制度を実施している。（資料 5-11）

- ・令和 5 年度に基礎研究、臨床研究等について顕著な功績があった教員を対象とした医学部・大学院医学系研究科研究貢献賞制度と、地域貢献に顕著な功績があった教員を対象とした地域活動貢献賞制度を設けた。（資料 5-12、5-13、5-14、5-15）。
- ・教員評価に係る PDCA 自己申告書と基礎データ入力シートの見直しを行い、内容の充実を図った（資料 5-16）。

今後の計画

- ・これまでも実施してきた授業単位での FD 研修会に加えて、カリキュラム全体を理解する FD 研修会を計画し実施する。
- ・新任教員を対象にした FD 研修会を計画し実施する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 5-11）三重大学医学部・大学院医学系研究科教育貢献賞に関する内規
- （資料 5-12）三重大学医学部・大学院医学系研究科研究貢献賞に関する内規
- （資料 5-13）三重大学医学部・大学院医学系研究科地域活動貢献賞に関する内規
- （資料 5-14）三重大学医学賞，三重大学病院賞及び三重大学病院教育賞
- （資料 5-15）三重大学医学賞及び三重大学病院賞表彰取扱要領
- （資料 5-16）PDCA 自己申告書

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

6. 教育資源

6.1 施設・設備

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver. 2.36 の内容は以下とおりである。

- ・[安全な学修環境] には、有害な物質、試料、微生物についての必要な情報提供と安全管理、研究室の安全規則と安全設備が含まれる。

日本版注釈：[安全な学修環境] には、防災訓練の実施などが推奨される。

日本版注釈：[安全な学修環境]には、解剖用献体の適切な保管が含まれ、解剖体に関する記録ならびに保管は関係する法律や省令に定められている（医学及び歯学の教育のための献体に関する法律、医学及び歯学の教育のための献体に関する法律に基づく正常解剖の解剖体の記録に関する省令）。

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。
- ・2023年9月23日に「最大規模の布引山地東縁断層帯地震」を想定した多数傷病者受入訓練」を実施。医学科5年生の臨床実習の一環として121名が参加した。又、ファシリテーターとして医学科3年生3名が参加した。又、その中では、自身が被災者になった際のイメージ獲得を目的にVR技術を用いた津波被災体験を行った（資料2-3、6-1）。
- ・令和6年4月1日より労働安全衛生規則等の一部を改正する省令（令和4年厚生労働省令第91号）（化学物質による労働災害防止のための新たな規制）に伴い、国立大学法人三重大学化学物質管理規程（令和6年4月1日施行予定）が適用されることとなる。このことから、三重大学では化学薬品の現状把握や関係法令に該当する化学薬品を「化学薬品管理システム」にて管理されることとなり各部署への周知及びその説明会の為の講習会が開催された（資料6-2、6-3）。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、担当部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料2-3）令和5年度事業報告書（黒潮医療人養成プロジェクト）
- （資料6-1）2023年度多数傷病者受け入れ訓練
- （資料6-2）化学薬品管理システム講習会の開催について
- （資料6-3）化学物質管理規定に関する学生教職員への周知のためのチラシ

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないように、担当部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・学生が適切に臨床経験を積めるという観点から、臨床実習施設の患者数と疾患分類を把握すべきである。

改善状況

- ・主たる教育病院である医学部附属病院の患者数を把握している（資料 6-4）。
- ・令和 5 年 1 月より CC-EPOC 導入を開始した（資料 3-1、6-5）。
- ・主な臨床実習施設の患者数・疾患分類の把握を行った（資料 6-6）

今後の計画

個々の学生が経験した疾患の把握に向けて CC-EPOC を活用していく方法をクリクラ委員会で検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 3-1） CC EPOC 評価票・評価基準
- （資料 6-4） 三重大学医学部附属病院概要 2023 P17-19
- （資料 6-5） CC-EPOC 評価等入力方法（教員用）
- （資料 6-6） 関連施設疾患分類（主な臨床実習施設の病院年報 URL）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・臨床実習を担当するクリニカルクラークシップ専門委員会において、臨床実習施設の状況の把握に努め、必要に応じ改善に向けての対応を行なっている（資料 6-7）。
- ・学外の臨床実習施設の状況を把握するため、窓口教員（学外実習を行う診療科のクリニカルクラークシップ専門委員会委員）を指名している（資料 6-8）。
- ・附属病院、および学外の関係教育病院の地域社会における役割や活動理念に関する資料を

収集し、卒後臨床研修評価機構(JCEP)の評価を元に、臨床実習実施医療機関としての適格性を評価した(資料6-9)。

今後の計画

臨床実習施設の内、臨床研修基幹が16基幹あり、うち10基幹がJCEPを受審し認証を受けている。今後、その他の臨床実習施設に関しても、経験できる病態・疾患、社会とのかかわりの観点等から評価を行って行く。

改善状況を示す根拠資料

(資料6-7) 各診療科における学外エレクトティブの受入意向調査について

(資料6-8) 令和5年度クリニカルクラークシップ専門委員会名簿

(資料6-9) 臨床実習施設のJCEP認証一覧表(三重県)

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・オンライン授業を実施するために必要なシステムを導入し、順調に運用している(資料6-10)。

・第1-2学年地域基盤型保健医療教育実習において、県下全市町村と大学とを繋ぐオンラインシステムを導入し、COVID-19流行下でのオンラインによる地域実習を実施できる体制を継続している。本授業においては、情報管理に関する倫理教育も併せて実施している(資料6-11)。

・情報通信技術の利用における倫理面での教育強化に関しては、

1年生の共通教育において(資料6-12)

3年生の研究室研修前のガイダンスにおいて(資料6-13)

4年生の臨床実習前のガイダンスにおいて(資料6-14)

医療情報、個人情報保護などに関する教育を行った。

・全学年パソコン必携化となり、講義室でのネット環境改善の為、総合情報処理センターにより回線の増強を行った。

・インタラクティブな授業を進めるために、クリッカーの使用を検討している教員を対象に利用方法のFDを開催した(資料6-15)

今後の計画

・オンライン授業の改善と充実、e-learningの積極的導入に向けて継続的に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 6-10）三重大学総合情報処理センターのお知らせ
- （資料 6-11）2023 年度地域基盤型保健医療教育実習 報告会
- （資料 6-12）2023_医学医療入門授業内容表
- （資料 6-13）研究室研修ガイダンス（藤井先生講義資料抜粋）
- （資料 6-14）令和 5 年度第 4 学年臨床実習ガイダンス
- （資料 6-15）クリッカーを始めよう

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・PBL で、ICT を利用したピア評価が実施されていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する（資料 6-16、6-17）。

今後の計画

- ・教務委員会と教育専門委員会が協力し、現在の評価システムの安定的運用と改善に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 6-16）2023 チュートリアル教育 ガイダンス（配布用）
- （資料 6-17）Body Interact (Student_Guide)

6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、担当部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・「研究室研修」では、学生全員に研究計画書、プログレスレポートの作成、成果の発表を英語で実施させ、優秀者には学会発表をさせていることは高く評価できる。

・「新医学専攻コース」では6年にわたって医学研究に取り組み、国際学会や国際的な科学雑誌に研究成果を発表していることは、高く評価できる。

改善のための示唆

・なし

改善状況

・COVID-19 流行下での状況を鑑み、オンライン授業等を活用することにより中断することなく2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続するとともに実施した（資料6-18）。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、担当部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

（資料6-18）2022-2023 プログレス発表会プログラム

6.5 教育専門家

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、医学・看護学教育センターの活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、医学・看護学教育センターの活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・第1学年から第5学年の「早期海外体験実習」、ならびに第6学年の「海外臨床実習」において、約半数の学生を海外に派遣し、また、海外の医学生を多数受け入れていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2022年度の海外大学との交流事業はCOVID-19流行拡大のため、一時休止せざるをえない状況であった。COVID-19流行収束後の再開に向けて、海外交流大学との継続的な連絡調整を行なった。そして、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、中断していた海外臨床実習を令和6年4月から再開することを決定した（資料6-19）。

- ・文部科学省 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業(高知大学・和歌山県立医科大学・三重大学)の臨床実習相互受け入れで、2022年度2名、2023年度1名の学生が他県で臨床実習を行った（資料2-3）。

- ・2023年3月1日、2024年3月2日にポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業の3大学合同シンポジウムを開催し、教員同士の交流、又、参加学生同士の交流が行われた。

- ・ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業において、2023年5月に高知県にて避難タワー見学、2023年8月1～2日に和歌山県の臨床実習施設へサイトビジットを行い教員同士の交流を行った（資料2-3）。

今後の計画

- 2024年度から早期海外体験実習、海外臨床実習、海外からの交換学生の受入れを再開する。
- 2024年度からの海外実習再開の方針に基づいて、協定大学や在外公館の協力を得て実習中の安全対策の見直しを行う。特に、新興・再興感染症に関する対策の検討を開始する。

改善状況を示す根拠資料

（資料2-3）令和5年度事業報告書（黒潮医療人養成プロジェクト）

黒潮医療人養成プロジェクト HP (<https://kuroshio-pjt.com/>)

（資料6-19）2023年度海外臨床実習名簿

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないように、関連部門での取り組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

7. プログラム評価

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・教育課程と学修成果の情報を、定期的に収集する仕組みを設けるべきである。
- ・収集した情報をもとにカリキュラムを評価する仕組みを確立し、プログラム評価を実施すべきである。
- ・評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

改善状況

- ・教育課程と学修成果の情報は、各教育課程を担当する教育専門委員会でモニタされ、その情報は教務委員会に報告されている（資料1-5）。年度末には、各教育専門委員長から教務委員長に対して、一年間の委員会活動の総括と懸案事項が報告されている（資料7-1）。
- ・COVID-19 流行拡大のため、十分な活動ができていなかったカリキュラム評価委員会の活動を開始した（資料1-2、2-22、7-2）。
- ・教育のアウトカムを実現するためのカリキュラムや令和4年度改定のコアカリキュラムに対応したカリキュラムを編成するため、カリキュラムの運営を担当する教務委員会から独立し、カリキュラムの立案に責任を持つカリキュラム委員会を立ち上げた（資料1-1、2-20、7-3）。

今後の計画

- ・カリキュラム委員会では、新カリキュラム対応準備（授業計画・規定整備等）を計画する（資料7-4）。

改善状況を示す根拠資料

- （資料1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024.2
- （資料1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024.1

- （資料 1-5）令和 5 年度各専門委員会の懸案事項と活動計画
- （資料 2-20）2023 年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料 2-22）2023 年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料 7-1）医学科教務委員会議事概要 2024. 3
- （資料 7-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会 事項書 2024. 1
- （資料 7-3）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会 事項書 2024. 2
- （資料 7-4）今後の開催スケジュールについて

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・地域医療など教育活動が置かれた状況をモニタし、評価することが望まれる。
- ・教育方法、評価方法などカリキュラムの特定の構成要素についてもプログラムを包括的に評価することが望まれる。
- ・知識だけでなく、態度、技能などの長期間で獲得される学修成果についても検証し、プログラムを包括的に検証することが望まれる。

改善状況

- ・地域での実習においては、実習窓口となる行政機関の担当者からのフィードバックを受けている（資料 7-5）
- ・態度、技能などの長期間で獲得される学修成果を評価するため、医学部 IR 室の機能強化に取り組んでいる。
- ・カリキュラム評価委員会の活動を開始した（資料 1-2、2-22、7-2）。
- ・プログラム検証のために CC-EPOC による評価システムを取り入れている（資料 3-1）。
- ・黒潮医療人養成プロジェクトに於いて、アンケート評価を用いたプログラム評価を行っている（資料 2-3）。

今後の計画

- ・各教育課程を担当する教育専門委員会と医学部 IR 室の協力の下、態度、技能などの長期間で獲得される学修成果を評価する方法の導入を計画する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1
- （資料 2-3）令和 5 年度事業報告書（黒潮医療人養成プロジェクト）
- （資料 2-22）2023 年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料 3-1）CC-EPOC 評価票・評価基準
- （資料 7-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会 事項書 2024. 1
- （資料 7-5）令和 5 年度三重大学医学部地域基盤型保健医療教育実習にかかるアンケート結

果概要

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「教育委員会と学生との懇談会」や「医学教育について語る会」により学生からのフィードバックを受けている。

改善のための助言

- ・教育活動全般について教員と学生からの系統的にフィードバックを求め、それを分析し、確実に対応すべきである。

改善状況

- ・「学生有志と教務委員長の懇談会」「医学教育について語る会」の内容は教務委員会で報告され情報共有と内容の検討が行われている（資料 7-1）。
- ・授業の質向上のために多くの学生の意見を聞くにあたって、全学が継続的に実施する授業評価アンケート実施結果を教務委員会で共有した（資料 7-6）。
- ・カリキュラム評価委員会の活動を開始した（資料 1-2、2-22、7-2）。

今後の計画

- ・カリキュラム評価委員会から教務委員会に対して教育活動全般に対する系統的なフィードバックを行う体制を整備することを計画する。
- ・現在不足している授業担当教員からのフィードバック体制の構築に必要な事項の検討を開始する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024. 1
- （資料 2-22）2023 年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料 7-1）医学科教務委員会議事概要 2024. 3
- （資料 7-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会 事項書 2024. 1
- （資料 7-6）「三重大学 学びの振り返り授業改善のためのアンケート」実施結果の共有について

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。

改善状況

- ・各教育課程を担当する教育専門委員会からの報告や学生からの教員評価の結果を利用し

て、教務委員会と医学・看護学教育センターとが協力してプログラム開発を行う方針を確認した。

- ・医学科教務委員会、学生委員会、医学・看護学教育センターが中心となり「卒前医学教育を行う施設のためのダンディー大学学習環境評価—Dundee Ready Education Environment Measure (DREEM)—のアンケート」を年2回実施した（資料2-9）。

- ・全医学科学生を対象とする「学びの振り返り／授業改善のためのアンケート」を年2回実施している。

今後の計画

- ・カリキュラムに関連する委員会からのフィードバックを受け、教務委員会と医学・看護学教育センターとが協力して、教育プログラムの改定・開発を進めることを計画する。

- ・DREEMで収集した結果を分析し、教務委員会に報告することにより学習環境の改善に活用することを計画する。

改善状況を示す根拠資料

（資料2-9）大学学習環境評価アンケート

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・学生と卒業生の実績を系統的に収集し、使命や学修成果の達成度、カリキュラムなどを分析すべきである。

改善状況

- ・医学部 IR 室による卒業生の臨床研修や勤務の状況を収集する体制の整備に取り組んでいる。

- ・全学組織である三重大学キャリアセンターの活動と連動し、医学科卒業生の状況調査を実施した（資料7-7）。

- ・三重県地域医療対策協議会と協力し、地域卒学生の卒業後のキャリア調査と分析を実施し、地域卒卒業生の詳細な進路状況調査を開始した（資料7-8、7-9、7-10）。

- ・全学でアンケート（4つの力等に関するアンケート、教育満足度調査、卒業生・修了生・事業所への調査）を実施し、これを公開した（資料7-11）

今後の計画

- ・医学部 IR 室で、卒業生の状況に関する調査の結果を医学科在籍中の成績評価等と関連づけて検討し、カリキュラムや教育方法に反映させることを計画する。

- ・地域卒学生の地域医療への貢献状況を解析し、医学科教育課程での地域卒学生に対する教育プログラムの改善を図ることを計画する。

- ・授業アンケートの内容を分析し、カリキュラムや教育方法に反映させることを計画する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 7-7）就活アドバイザー制度によるキャリア支援のご案内
- （資料 7-8）令和 5 年度 第 3 回三重県地域医療対策協議会 事項書
- （資料 7-9）三重県地域医療支援センターキャリア形成プログラム（R6）
- （資料 7-10）三重県地域医療支援センターキャリア形成卒前支援プラン（R6）
- （資料 7-11）令和 5 年度 三重大学修学達成度評価 報告書（概要）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・学生と卒業生の実績を分析するために、学生の背景と状況などを系統的に収集することが望まれる。
- ・学生の実績を分析し、カリキュラム立案について責任がある委員会へフィードバックすることが望まれる。

改善状況

- ・卒後研修部門と協力して卒業後の情報を収集し、系統的な解析を行なう体制の整備に取り組んでいる。
- ・カリキュラム委員会の活動を開始した（資料 1-1、2-20、7-3）。

今後の計画

- ・臨床研修キャリア支援部、NPO 法人 MMC 卒後臨床研修センター、三重県地域医療センターの協力を得て、医学部 IR 室での系統的な情報収集を進めることを計画する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024.2
- （資料 2-20）2023 年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料 7-3）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会 事項書 2024.2

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・カリキュラムを評価するカリキュラム委員会と教育方針・教育の管理運営体制の評価を担当するカリキュラム管理委員会に、学生を含む主要な構成者を含んでいる。

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。
- ・カリキュラム関連委員会の委員構成の見直し、委員会には、学生を含む主要な構成者を含め委員を構成した（資料2-20、2-22）。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないように、学生を含む主要な構成員の教育関連部門の活動への参画を促進する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料2-20）2023年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料2-22）2023年度 カリキュラム評価委員会名簿

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・卒業生の実績やカリキュラムに関するフィードバックを、広い範囲の教育の関係者に求める仕組みを有効に機能させることが望まれる。

改善状況

- ・カリキュラム委員会の活動を開始した（資料1-1、2-20、7-3）。

今後の計画

- ・学生委員からの積極的な意見を幅広く取り入れることを推奨する。また、カリキュラム委員会においてカリキュラム委員外からも議論のテーマ毎に幅広い役職の担当者が参加する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024.2
- （資料2-20）2023年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料7-3）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会 事項書 2024.2

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

現在の状況を後退させることがないよう、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・医学部の教務委員会などの各委員会において、学生を含む主な教育の関係者の意見をより反映させることが望まれる。

改善状況

- ・学生と教務委員との意見交換会、医学部クラブ・サークル連絡会（学生委員会と学生代表との意見交換の会）、臨床実習振り返りの会（学期末に開催）、学生と教員とがともに参加する医学教育を語る会など学生からの意見を聴き、学生の意見を委員会の活動等に反映する仕組みを構築している（資料1-6、1-7、1-8、4-19）。

- ・幅広い職位の教員や職員が、教務委員会などの各委員会に委員として参加し意見を述べる機会を設けている。

- ・地域での実習においては、市町村の担当者からの意見を聴く工夫を行なっている。

- ・統合型教育の推進とモデルコアカリキュラムに準拠したカリキュラムを構築するにあたり、カリキュラムの評価を担うカリキュラム評価委員会の意見を反映させるため、学生や教職員を含む主な教育関係者を委員とするカリキュラム委員会を設置し、検討を始めた（資料1-1、1-2、2-20、2-22、2-23、8-1）。

- ・カリキュラム評価委員会とカリキュラム委員会は、教務委員会および各種教育専門委員会とともにPDCAサイクルを構築し、時代の要請を含む教学の品質を担保するフレームワークを形成している（資料2-23、8-1、8-2、8-3）。

今後の計画

- ・学生や教職員を含む主な教育の関係者が委員であるカリキュラム委員会を開催し、医学教育の充実に向けた統合型教育の推進とモデルコアカリキュラムに準拠した新カリキュラムの原案を策定する（資料1-1、1-2、2-20、2-22、2-23、8-1）。

- ・カリキュラム委員会が策定した新カリキュラムの原案をカリキュラム評価委員会において評価する（資料2-23）。

改善状況を示す根拠資料

（資料1-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024.2

（資料1-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2024.1

- （資料 1-6）医学部医学科第 1 学年「新生と教員が語る会」 2023. 6
- （資料 1-7）医学部医学科第 3 学年「医学教育を語る会」 2024. 2
- （資料 1-8）医学部医学科第 5 学年「診療参加型臨床実習を語る会」 2023. 11
- （資料 2-20）2023 年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料 2-22）2023 年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料 2-23）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会規程
- （資料 4-19）令和 5 年度 クラブサークル連絡会の開催について（4 月開催分）
- （資料 8-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会規程
- （資料 8-2）教学の PDCA サイクル（カリキュラム評価委員会・カリキュラム委員会と教務関係部門との関係）
- （資料 8-3）三重大学医学部医学科教務委員会規程

8.2 教学における 執行部

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・医学部の学修成果に照合したリーダーシップの評価を、より明確に行うことが望まれる。

改善状況

・教務委員会において教務委員会及び教務委員会の各専門委員会の懸案事項と対策について検討し共有を図っている。また、医学部教授会より教務委員会の懸案事項について評価と助言を受けている。（資料 8-4、8-5）

・医学部長は、教育を含む医学部における管理運営の状況を学長に報告し、学長からの評価を受けている（資料 8-6）。

今後の計画

- ・上記の活動を継続するとともに、妥当性のある評価の実施に向けて継続的な検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 8-4）令和 5 年度医学科教務委員会の懸案事項
- （資料 8-5）令和 5 年度各専門委員会の懸案事項と活動計画（専門委員会のみ）
- （資料 8-6）大学教員個人評価における部局の長に対する取扱い

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・配分した教育予算について毎年度チェック・見直しを行っており、より効果的で適切な配分を継続するとともに、現在の状況を後退させることがないよう、関連部門での取組みについても継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないように、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・国立大学法人評価と機関別認証評価を定期的に受審している。

改善のための示唆

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないように、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・三重県医療保健部や三重県地域医療研修センター、三重県下全 29 市町との協力関係を築いている。

改善のための助言

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないように、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・低学年の地域コミュニティ実習で、成人病検診などの保健活動に参加し協働関係を構築していることは評価できる。

改善のための示唆

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、地域の保健医療部門との連携協力を継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

9. 継続的改良

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準：評価を実施せず

特記すべき良い点（特色）

改善のための示唆

改善状況

・なし

今後の計画

・カリキュラム評価委員会は、医学科カリキュラムを適切に評価し、教育の充実を図ることを目的として設置され、委員会での審議結果を医学部長に提言することとしている。カリキュラムの実施は、教務委員会とその下部組織である教育専門委員会とが協力して担っている。カリキュラムに関する検討・立案は、教務委員会とは独立した関係にあるカリキュラム委員会が担う（資料 2-23、8-1、8-2、8-3）。

改善状況を示す根拠資料

（資料 2-23）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会規程

（資料 8-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会規程

（資料 8-2）教学の PDCA サイクル（カリキュラム評価委員会・カリキュラム委員会と教務関係部門との関係）

（資料 8-3）三重大学医学部医学科教務委員会規程